モリト株式会社

第8次中期経営計画のアップデートについて

あたりまえに、新しさ。 **MORITO**

東証プライム 証券コード 9837

2024年1月

小さなパーツで世界を変え続ける

グローバル ニッチ トップを目指して

私たちがパーツでできること 持続可能な社会のためにできること

「あたりまえに、新しさ。」

第8次中期経営計画アップデートサマリー

現状分析

<取り組みの成果>

- ① 事業再編による利益率の向上
- ② コロナ禍における機会創出・経費見直し
- ③ PBR改善(右グラフ参照)
- → 筋肉質な利益体制の構築 当初の財務数値目標を早期達成の見込み



<課題>

- ① 各事業の具体的な成長戦略
- ② 今後の成長に向けた投資
- ③ PBR1倍以上を目指した経営 →株主資本コストを上回る ROEの実現

アクションプラン

● 次期中計を成長ステージとするための投資の実行

設備投資・新ビジネス・B to C強化 / IT基盤の構築・人的資本への投資 / メーカー機能拡大

● 既存事業の成長のための戦略

地産地消・アジア戦略 / グローバルシェア拡大

第8次中期経営計画アップデート

- 財務数値目標の上方修正
- 2026年度までを未来の成長の加速に向けた 準備期間と設定

● Rideeco®の推進

財務数値目標

【 2026年度 】

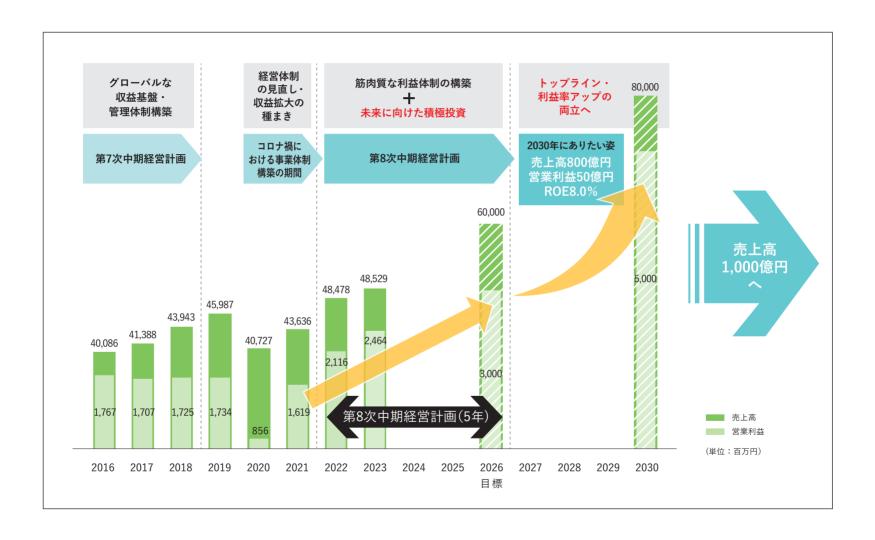
売上高:600億円 営業利益:30億円 ROE:6.5%

【 2030年度ありたい姿 】

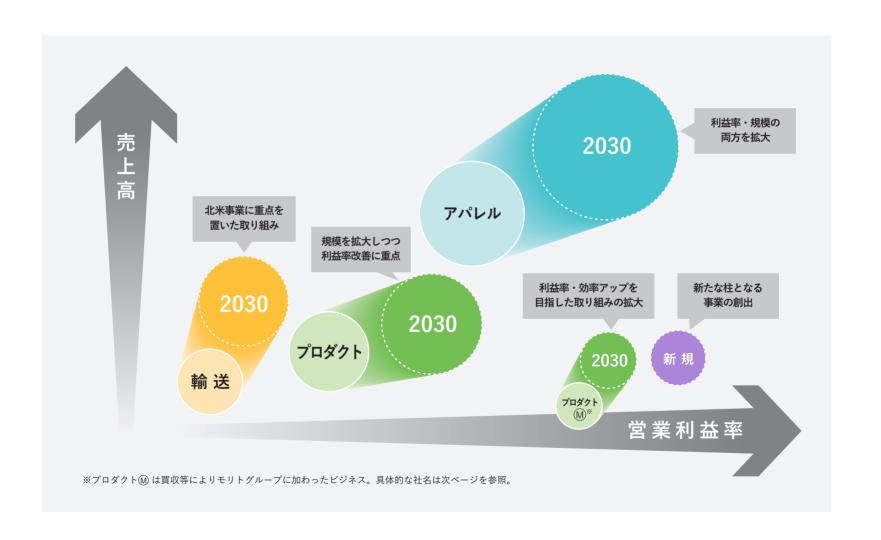
売上高:800億円 営業利益:50億円 ROE:8.0%

04

中期経営計画アップデートにあたっての基本的な考え方



事業別 現状と2030年にありたい姿



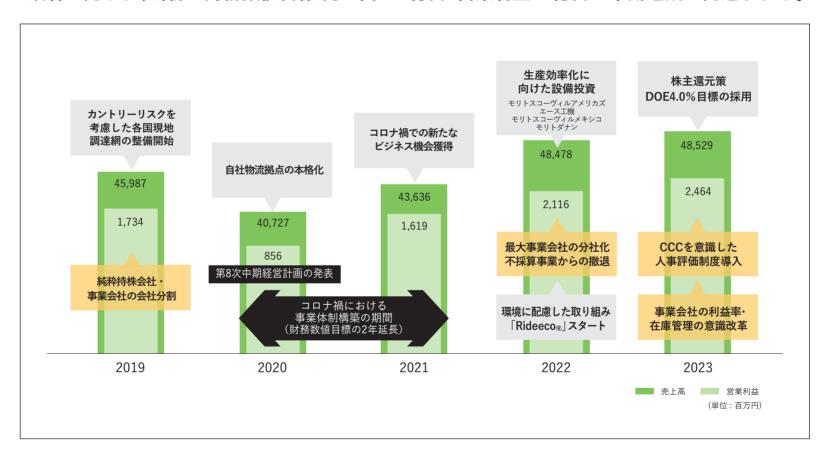
(参考) セグメント別 グループ会社一覧

	⇒ .01 μ即法未来	プログタし即本本ツ	₩ ************************************		
	アパレル関連事業	プロダクト関連事業	輸送関連事業 		
	モリトアパレル(株)	モリトジャパン(株)	モリトオートパーツ(株)		
日	(株)マテックス	エース工機(株)]		
本		(株)マニューバーライン	- ※プロダクトM)		
		(株)キャンバス			
	MORITO SCOVILL HONG KONG CO.,LTD.				
7	摩理都(上海)国際貿易有限公司				
アジア	MORITO TRADING (THAILAND) CO.,LTD.				
<i>)</i> *	摩理都工貿(深				
	MORITO DANA				
F 4	MORITO (EUROPE) B.V.				
欧					
*	MORITO SCOVILL AMERICAS, LLC		MORITO NORTH AMERICA, INC.		

第8次中期経営計画(~2026年度)について

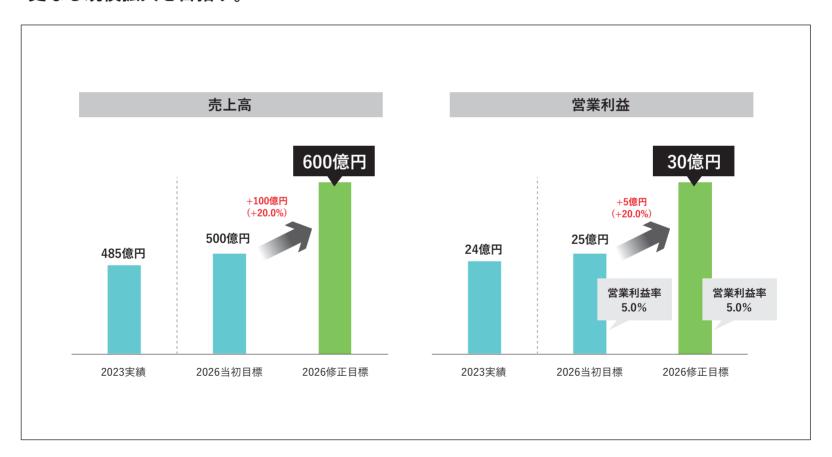
過去5年間の取り組み(2019年度~2023年度)

会社分割など構造改革を中心とした取り組みにより、コロナ禍からの売上回復・利益率の改善が顕著に見られ、当初の財務数値目標売上高500億円・営業利益25億円の早期達成が見込まれる。

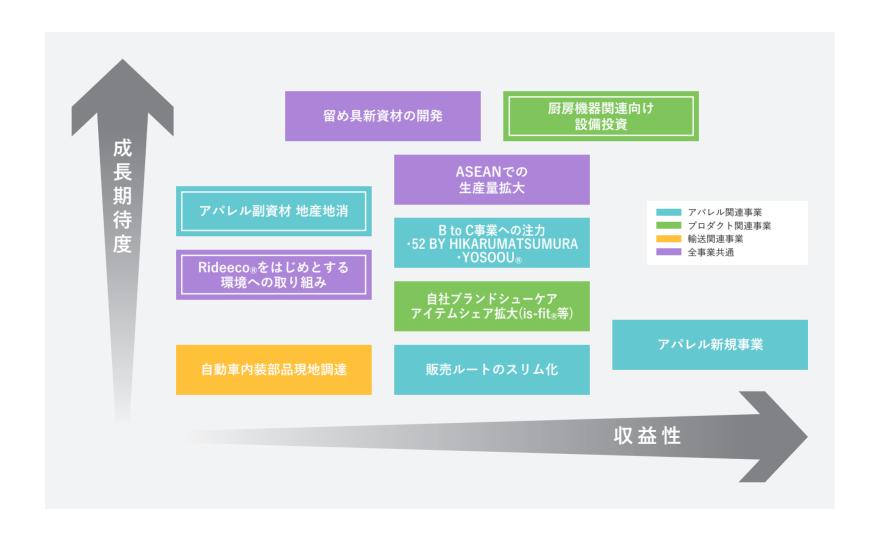


財務数値目標のアップデート

直近で改善した利益率の水準を維持することに加え、トップラインを伸ばすことに注力。 更なる規模拡大を目指す。



第8次中期経営計画 達成に向けた成長戦略の全体図



11

成長戦略 1 【環境への取り組み **分** Rideeco®(リデコ)】

Rideeco®(リデコ)は、2021年度より開始したモリトグループの環境配慮型の商品開発等の取り組み。「新たな価値を創り上げたい」と考えている方や企業と業種や業界の垣根を超えて、美しい地球・資源を、未来に繋げる新しい価値を創造する取り組みを実施。

「不要なもの」とされていたものを循環させることにより、新たな価値を生み出すとともにサステナブルへ貢献。

廃漁網のリサイクル



廃漁網の不要物除去作業





服の端切れのリサイクル





スポーツチームの 使用済アイテムのアップサイクル





Ride for Eco:

サステナブルを支持するという 意味

Relation

新たな価値の創造に向かって 様々な業種、業界と関係性を 構築し力を合わせる

nitiative

傍観者では無く、自らがサステ ナブル社会に向かって取り組む

Devote

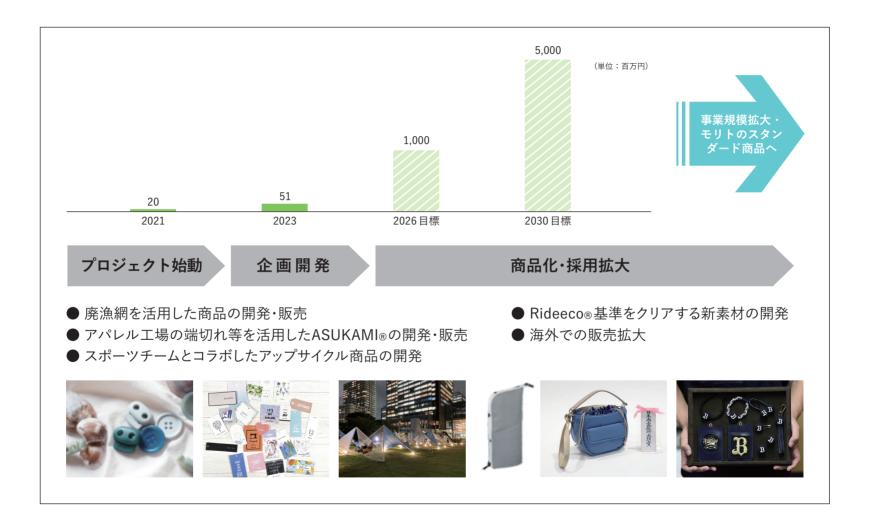
短期的な利潤の追求だけでは なく、未来の社会のために自ら の知恵を捧げる

nergy

そして根気よく、力を込めて活動 する

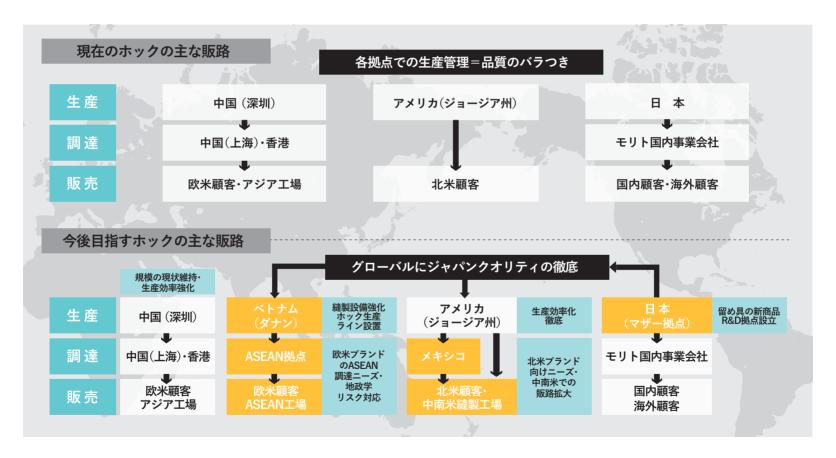
▶Rideeco® ウェブサイト

成長戦略1 【環境への取り組み】



成長戦略 2 【アパレル副資材 地産地消】

エリアごとの品質差を無くし、「モリト品質」を全世界から供給。顧客の要望に応じ、生産地を選定し、限りなく輸送距離を短縮したサステナブルで、効率的な生産・供給の実現を目指す。



成長戦略 3 【プロダクト関連事業 厨房機器関連サービス】

● 事業効率化に向けた設備投資

→ 自社工場のオートメーション化、 最先端の洗浄設備を各拠点へ

● サービス提供地域の拡充

→ 関東・関西・北海道・中四国 等

- 安全で快適な環境を実現する トータルメンテナンスサービス の提供の拡充
- → 飲食店・スーパー・食品工場・ホテル 等

厨房機器関連サービス 事業概要

エース工機株式会社では、飲食店等の厨房の排気ダクトに使われる各種フィルターのレンタルサービス事業を展開し、フィルターの交換・配送・洗浄を実施。厨房排気設備清掃事業も実施し、施設内の快適環境の実現・火災リスクの軽減に寄与。



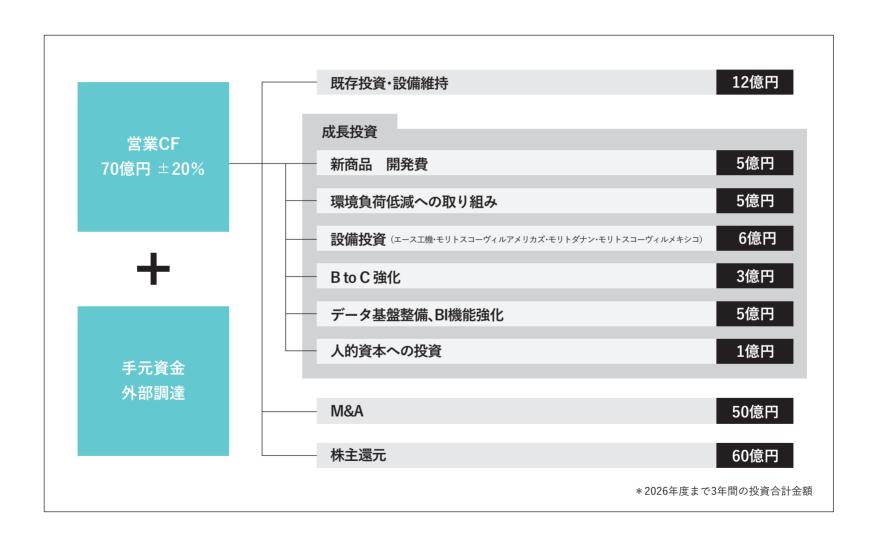
グリスフィルター 飲食店などの厨房の排気ダクトの入口部に設置されるフィルター。 ダクトの油汚れを抑え、火災を抑制。





自社工場設備 自動制御のクレーンにより、フィルター洗浄·乾燥を自動化

投資戦略



投資戦略 【M&A】



コーポレート戦略 【IT戦略】

~2023年度

ベースメントIT機能の整備を中心とした取り組み・最適なIT機能への投資

経営情報IT機能

- グループ経営情報の効率的な 提供・管理体制構築
- データ分析基盤確立による グループ各社のデータ連携
- 高精度な分析・グループ各社の 効率経営へ

~2026年度

ビジネスIT機能

- BtoB受注Webシステム導入
- PSI計画導入·活用
- RPAの活用

受注から物流まで効率的な 一気通貫の実現・無駄のない 在庫体制の構築

ベースメントIT機能

全グループの共通インフラ、安心・安全・安定の環境構築

BCP対応強化・事業拡大等に伴う 変化対応力の強化

~2030年度

スピード経営実現による規模と収益性拡大の加速

経営情報IT・ ビジネスIT・ ベースメントITの 融合でグループ全体の 付加価値創造

コーポレート戦略 【人的資本】

人材の獲得・育成・適材適所の配置・グループ間活用を行い、グループ全体の人的資産価値の 向上を図るため、各種施策を実施。

人材育成

■ コンプライアンスセミナー・管理職向け新任管理者研修・従業員の スキル向上のための通信講座・選抜型幹部候補育成プログラムの 実施

安心·安全

- メンタルヘルスに関するストレスチェック・心理的安全を考えるワーク ショップ等実施
- 防災訓練、災害時の計員安否確認システムの運用

多様な働き方

- ダイバーシティプロジェクト活動実施
- 女性活躍推進等:管理職の割合についての 数値目標を設定
- 男性の育児休業・育児関連休暇の取得推進

▶詳細はこちら





目標

モリトグループ人材マネジメント方針

海外を含む全グループ会社が共通の方針で 人事施策を展開するため「モリトグループ人材マネジメント方針」を策定。

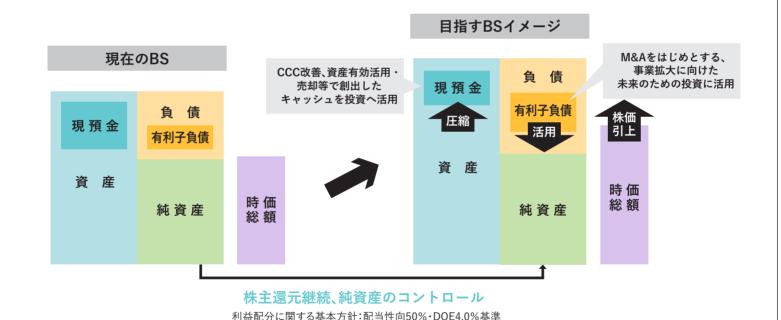


従業員満足度・エンゲージメントの向上

- 従業員の能力を最大限に発揮し、目標に向かって邁進できる 体制を形成するため従業員満足度調査を実施
- 調査結果の分析・改善に取り組み、エンゲージメント向上の ための様々な施策を実施

コーポレート戦略 【資本政策・財務戦略:全体像】

- 積極的な成長投資による事業拡大(投資戦略の詳細はP16参照)
- 有利子負債活用による資本構成の適正化
- 株主還元の継続、純資産のコントロール

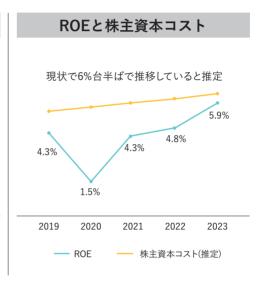


機動的な自己株式取得・適切な消却を実施

コーポレート戦略 【資本政策・財務戦略:現状分析】







現状分析

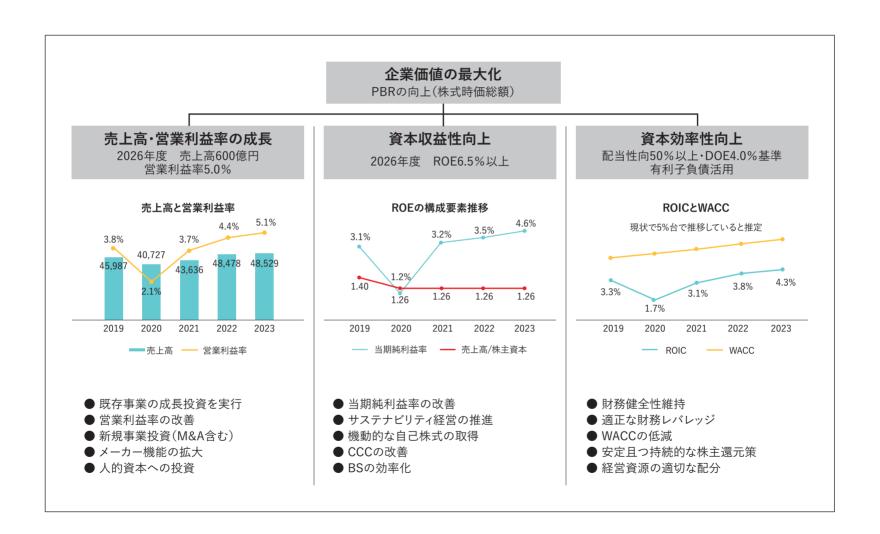
構造改革による利益体質改善や株主還元策の変更

- ・EPSが上昇
- ・PBRが1倍近くまで上昇
- ・ROE6.0%近くまで上昇

課題

ROEが株主資本コストを下回っているため、 資本収益性の向上が課題であると認識

コーポレート戦略 【資本政策・財務戦略:資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応】



株主還元策

株主に対する利益還元を経営上の重要課題のひとつと位置付け、投資案件および財務状況 (純資産等)を勘案の上、下記の方針に基づき、配当額を決定。

安定的かつ継続的 配当の実現 業績状況等により 親会社株主に帰属する 当期純利益に対する

> 配当性向は 50%以上を 基準

連結自己資本配当率

DOE 4.0% 基準

機動的な自己株式取得および適切な消却の実施を引き続き検討

※ ただし、特別な損益等の特殊要因により税引後の親会社株主に 帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度についてはその 影響を考慮し配当額を決定します。

配当金の推移	2020	2021	2022	2023	2024(予想)
年間配当(円/株)	18.0	26.0	32.0	55.0	58.0
配当性向(%)	104.8	50.6	51.4	66.2	67.1
DOE (%)	1.5	2.2	2.4	3.9	4.0

財務数値目標

		2023年度実績	2026年度目標	2030年度ありたい姿
業績	売上高	485億円	600億円	800億円
未模	営業利益	24億円	30億円	50億円
	総資産	514億円	成長投資により拡大 ↑	
	純資産	384億円	株主還元により現水準維持 →	
資産・資本収益性	有利子負債	14億円	成長投資への活用による増加 🕇	
	自己資本比率	74.7%	有利子負債活用による低下 ↓	
	ROE	5.9%	6.5%	8.0%
	配当性向	66.2%	利益成長による低下	
株主還元	DOE	3.9%	4.0%	4.0%
	自己株式取得	4.7億円	機動的に取得を検討 →	
成長投資	投資額	5.4億円	87億円 ※2024~2026年度合計	成長投資拡大

本資料のお取扱いについて

本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、 当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、 完全性を保証するものではありません。

本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき 当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。 そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されて いる将来見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先 モリト株式会社 社長室

〒541-0054 大阪市中央区南本町 4-2-4

E-mail: ir@morito.co.jp

MORITO

あたりまえに、新しさ。